

和漢古書に関するコーディングマニュアル(案)

2002年4月23日版

1. 適用範囲・書誌レコードの作成単位

原則として、和古書は1868年以前、漢籍は1912年以前のものを和漢古書とする。

ただし、幕末のもの、清朝末期のものにおいて、近代的印刷技法・出版形態によって大量出版されたものについては、和漢古書扱いとしなくてもよい(版毎に書誌レコードを作成し、その書誌レコードを共有する)。

また、明治期以降のものであっても、和漢古書としての取扱いが適当と思われる書写資料、少数部数の刊行物などの場合は、和漢古書扱いとする。

日本における近代印刷技術の確立は、明治極初期の本木昌造等に求められるが、それ以前、幕末期にはすでに、油性インクを使用した銅版本や活版本の出版が盛んに行われていた。又、中国においては、清朝末期にはすでに近代洋式印刷の一種である石印本が大量に出版されていた。

しかしその一方では、旧来からの手法(版木を用いて少数ずつ印刷・製本)そのままの出版も、近代以降の数十年の間、続いていた。

こうした、過渡期における新旧の交錯した印刷技法・出版状況に対しての現実的な対応である。

和漢古書は、記述対象資料毎に特有な記述が必要であるため「稀覯本」扱い(「目録情報の基準・第4版」4.2.3)とし、記述対象資料毎に別書誌レコードを作成する。また、その旨を最初の注記として記録する。

(例) NOTE: 和漢古書につき記述対象資料毎に書誌作成

2. 通則

C.M.2.0D(追加)

ア) 情報源

和漢古書においては、各データ要素の情報源として有効である箇所及びその優先順位は、時代により、分野により、更には当該資料により異なる。従って、原則としてその資料全体が情報源として検討される必要がある。この原則のもとに、各データ要素は、それぞれのフィールドについて比較的有効である下記の情報源を参考として、記録する。

1) タイトル及び責任表示に関する事項

巻頭、題簽、外題

目首、自序、自跋、巻末(尾題も含む)

刊記、奥書、見返し(封面)、扉、版心、小口書、著者・編者以外の序跋、識語等

2) 出版・頒布等に関する事項 - 刊記、奥書、見返し(封面)、扉、序、跋、識語等

3) 形態に関する事項 - その資料から

4) 書誌構造リンク - その資料から

5) 注記 - どこからでもよい

タイトルについては、巻頭以外を情報源とした場合にはNOTEフィールドにその情報源を示す。

また、各書誌的事項において、識語および後補書入を情報源とした場合には、NOTEフィールドにその旨を記録する。その他、各データ要素において必要があるときは、NOTEフィールドにその情報源を示す。

イ) 記録の方法

1) 転記の原則

特に規定されている場合を除き、原則として記述対象資料に表示されているままに記録する。

(例) 忝株木三階奇談 (「忝」は「松」の異体字で、UCSであれば入力可能)

転記の原則に従えない事情がある場合には、何らかの方法によって当該フィールドに表現し、その旨を NOTE フィールドに記録する。

(例) TR: ヘマムシ入道昔話

NOTE: タイトル表記は片仮名の「ヘマムシ」で人の横顔を描いたもの



2) 文字の転記

変体がな

変体がなは平がなに改める (NCR1.0.6.3 及び NCR2.0.6.3) かなの母体となっている漢字 (= 字母) 表記を VT フィールドに記録することができる。

タイトルの種類は VT:(異なりアクセスコード) を使用する。なお、繁雑になる場合は検索に有効なものを優先する。

(例) TR: となみ山

VT: VT: 刀奈美山

繰返し記号

繰返し記号 (「々」「ヽ」「ゞ」「ゝ」「ゞ」「ㄥ」など) は、そのままの形を TR フィールドに記録する。本来の文字を繰り返した形は VT フィールドに記録する。タイトルの種類は VT:(異なりアクセスコード) を使用する。

2 文字分以上にわたる長さの記号など、繰返し記号を転記できない場合は、本来の文字を繰り返した形を TR フィールドに記録する。NOTE フィールドに繰返し記号であることを記録する。

(例) TR: つれづれ草

NOTE: 書名の繰返し部分は繰返し記号

3) 補記

記述対象資料以外から得た情報を補って記録する場合は、その事実を示すため当該事項を角括弧 ([]) に入れる。

4) 誤記、誤植、誤刻

誤記、誤植、誤刻が明らかなきとき、正しい形に訂正し、訂正したことがわかるように記録する。また、NOTE フィールドにその旨を記録する。

タイトルに誤表示がある場合は、検索に支障のないよう、正しい形及び誤って表示された形を VT フィールドに記録することができる。

5) 脱字

脱字が明らかなきとき、その字を角括弧 ([]) に入れて補記する。

タイトルに脱字がある場合は、検索に支障のないよう、正しい形及び誤って表示された形を VT フィールドに記録することができる。NOTE フィールドにその旨を記録する。

6) 判読不可能文字及び推読文字

破損その他の理由で判読できない文字は四角 () を用い、該当文字数を並べる。字数不明の時

は、「・・・」とする。推読文字については、角括弧（[]）に入れて補記する。

(例) 天 宮御伝記略
天 …… 記略
天 [満] 宮御伝記略

3. 巻冊次等 VOL

C.M.2.1.11E (追加)

巻次と冊次が併用されている場合

巻冊次で、巻次と冊次の両方が併用されている場合は、原則として書誌的巻数に近いものを優先して記録する。VOLフィールドに記録しなかった巻冊次はNOTEフィールドに記録する。

(例) VOL: 巻第 1
VOL: 巻第 2-3
VOL: 巻第 4-7
VOL: 巻第 8-9
VOL: 巻第 10-13
VOL: 巻第 14-15
VOL: 巻第 16-19
VOL: 巻第 20-23
VOL: 巻第 24-27
VOL: 巻第 28-30
TR: 南山史 30 巻 / 成島謙編輯
PHYS: 10 冊 ; 26.5×18.5cm
NOTE: 表紙の書き入れによる冊次: 巻第 1: 一, 巻第 2-3: 二, 巻第 4-7: 三, 巻第 8-9: 四, 巻第 10-13: 五, 巻第 14-15: 六, 巻第 16-19: 七, 巻第 20-23: 八, 巻第 24-27: 九, 巻第 28-30: 十
NOTE: 全[329]丁 (巻第 1: [36]丁, 巻第 2-3: [32]丁, 巻第 4-7: [38]丁, 巻第 8-9: [29]丁, 巻第 10-13: [35]丁, 巻第 14-15: [33]丁, 巻第 16-19: [37]丁, 巻第 20-23: [28]丁, 巻第 24-27: [30]丁, 巻第 28-30: [31]丁)
(例) 各冊の表紙に貼られた題籤(刷)に「乾」「坤」とある場合
VOL: 巻之 1-5
VOL: 巻之 6-10
NOTE: 題籤による冊次: 巻之 1-5: 乾, 巻之 6-10: 坤

C.M.2.1.11F1.1 の 2 つ目のパラグラフ (例を追加)

(例) 記述対象資料に「巻之一」「巻之二三」と表示されている場合
VOL: 巻之 1
VOL: 巻之 2-3
(例) 記述対象資料に「上ノ三四五」「下ノ三四終」と表示されている場合
VOL: 上ノ 3-5
VOL: 下ノ 3-4 終
(例) VOL: 上
VOL: 中
VOL: 下

C.M.2.1.11F1.3 (例を追加)

VOLフィールド - 巻冊次の補記

(例) VOL:[1 桐壺]

VOL:[2 帚水・空蟬]

VOL:[3 夕顔]

VOL:[4 若紫]

(中略)

VOL:[49 夢浮橋]

TR:[源氏物語] 54巻(存52巻) / [紫式部著]

なお、必要があればNOTEフィールドに記録する。

4. タイトル及び責任表示に関する事項 TR

[データ要素の情報源]

C.M.2.2.1E (「また、古刊本、古写本等の場合は…」以下を変更)

和漢古書の場合には、原則として記述対象資料全体であるが、その中でも比較的有効である情報源は下記の通りとする。

(1) 巻頭、題簽、外題

(2) 目首、自序、自跋、巻末(尾題も含む)

(3) 刊記、奥書、見返し(封面)、扉、版心、小口書、著者・編者以外の序跋、識語等

タイトルについては、巻頭以外を情報源とした場合にはNOTEフィールドにその情報源を示す。

C.M.2.2.1F1.5 (条文の後に追記)

和漢古書の場合には、記述対象資料中のどこにも本タイトルがない場合は、適切な情報源による本タイトルか、目録作成者が決定した簡潔で説明的な本タイトルを補記する。このとき、目録作成者が判断・決定したことをNOTEフィールドに記録する。また、タイトルを記述対象資料中の巻頭以外からとった場合にも、NOTEフィールドにその情報源を示す。

(例) TR:[諸国産物絵図帳]

NOTE:書名は目録作成者による

(例) TR:伊曾保物語

NOTE:書名は序首より

[本タイトル及びタイトル関連情報]

C.M.2.2.1F1.4 と C.M.2.2.1F1.5 の間に追加

記述対象資料に複数の著作が含まれ総合タイトルがない場合で、著者が異なる場合、次のように扱う

(1) 一部の著作の著者がわからない場合は、わかる著作の責任表示を記録する。

(例) TR:お阿無物語 / 山田去暦女著 . おきく物語

(2) 一部の著作の著者が共通している場合は、該当の著作に責任表示を繰返して記録する。

(例) TR:兼好傳考證 / 大国隆正著 ; 村田嘉昇画 . 志のぶ山物がたり / 大国隆正著

(3) TRフィールドに全ての著作を列記すると繁雑になる場合には、繁雑にならない数をTRフ

ィールドに列記し、残りの著作を CW フィールドに記録してもよい。

必要に応じて NOTE フィールドに、合刻本・合写本であることを記録する。

C.M.2.2.1 F1.4 のあとに F1.5 として追加

書誌的巻数の記録方法

和漢古書の場合には、書誌的巻数をタイトルの一部として、タイトルの後スペース()に続けて、アラビア数字に置き換えて記録する。不完全本の場合は、完全本の巻数を記録し、続いて現存巻数を丸括弧()に入れて付記する。完全本巻数が不明な場合は、現存巻数のみを丸括弧()に入れて付記する。存巻ないし欠巻の内容については、NOTEフィールドに記録する。なお、記述対象資料が一卷(巻立てがない)の場合には、巻数の記録はしない。

(例) TR: 八家四六文註 8巻補 1巻

(例) TR: 八家四六文註 8巻補 1巻(存 7巻)

NOTE: 巻四、補の 2巻を欠く

(例) TR: 天地冥陽水陸雜文(存 2巻)

NOTE: 存巻 疎下・牒下

また、対象となる資料が多巻ものの零本等にあつては、形態的に独立した特定の部分だけをタイトルとして採用できる。

(例) TR: 水族写真巻之一

(例) TR: 源氏物語若紫巻

(例) TR: 大般若波羅密多經卷三百八十二

〔責任表示及び並列責任表示〕

C.M.2.2.1 F3.2 の条文の後に追記

和漢古書の場合には、記述対象資料中に、責任表示に相当する表示がないとき、記述対象資料以外の何らかの情報源から得られた場合にはそれを補記し、その情報源はNOTEフィールドに記録する。また、記述対象資料中の識語および後補書入れを情報源とした場合には、NOTEフィールドにその旨を記録する。

C.M.2.2.1 F3.8 として追加

役割表示の補記

和漢古書を記述する場合、情報源に役割表示がないときは、適切な役割を補記する。

1) 和古書の場合

著、編、撰、詠、吟、判、詞、画、訳、等々

2) 漢籍の場合

撰、輯、選、校、訂、評、注、補、絵、等々

5. 出版・頒布等に関する事項 PUB

〔記述文法〕

C.M.2.2.3B5 として追加、または「4 製作等に関する事項」に、書写資料についての注記を追加する。

5) 製作等に関する事項(写本の場合)

(図省略)

4) 製作等に関する事項

(図省略)

書写資料の場合は、製作事項における丸括弧は省略する。

〔 NCR87R の区切り記号の採否 〕

C.M.2.2.3C (「ただし」 以下を追加)

1.4.0.2 (区切り記号法) は、ア) オ) カ) ク) を除いて採用する。

カ) の製作項目 (製作地、製作者、製作年) は、出版・頒布に関するデータ要素とは別に、PUB フィールドを繰り返したうえで丸括弧に入れて記録し、丸括弧の前にはスペースは置かない。ただし、写本においては、NCR1.4.0.2A の規定により、丸括弧を省略する。

〔 データ要素の情報源 〕

C.M.2.2.3E.1 (古刊本、古写本に関する 2 行を変更)

和漢古書の場合には、原則として記述対象資料全体を情報源とするが、その中でも比較的有効である情報源は下記の通りとする。

刊記、奥書、見返し (封面) 扉、序、跋、識語等

なお、出版・書写事項を識語及び後補書き入れからとった場合は、NOTE フィールドに情報源を記録する。

また、ここに挙げた情報源以外でも、出版者については、広告、蔵版目録や、記述対象資料に捺印された発行印 (出版者標章のようなものも含む) などから採録してもよい。この場合も、NOTE フィールドに情報源を記録する。

記述対象資料によるべき情報源がない場合、あるいは資料に表示されている出版・書写に関わる情報が記録するのにふさわしくない場合は、可能な限り参考資料を調査して記録する。記述対象資料以外からの情報は、角括弧 ([]) に入れて補記し、参考資料としたものについて NOTE フィールドに記録する。

〔 データ記入及び記入例 〕

C.M.2.2.3F.1 (古刊本に関する 2 行及び次のフレーズを変更)

また、刊本 (刻本) の場合、出版地とそれに対応する出版者等の組が複数表示されている場合は、各出版地から、顕著なもの、最後のものの順で、代表とする一組を選んで記録する。この場合、各々 [ほか] と補記する。

(例) PUB : 京 : 上村平左衛門

PUB : 江戸 : 萬屋清兵衛

PUB : 大坂 : 伊丹屋太郎右衛門

(例) PUB : 大阪 : 鹽屋長兵衛 [ほか]

PUB : 江戸 : 鶴屋金助 [ほか]

NCR87R (2.4.1.1C、2.4.2.1D) においては一つを選択して記録することとしているが、本システムにおいては、この組を、4 つまで記録することができる。なお出版地ごとの、2 番目以降の出版者等についても、NOTE フィールドにではなく PUB フィールドに、記述文法に従って複数記録することができる。ただし、2 番目以降の出版地、出版者等の入力レベルは「選択」である。

書写事項

写本（鈔本）については、書写事項（書写地・書写者・書写年）をNCR87R3.4の「製作に関する事項」（製作地・製作者・製作年）としてPUBフィールドに記述する。NCR87R3.4.2.2A（記録の方法）においては、書写者は記録しないこととしているが、自筆か転写かにかかわらず、すべて「製作者」として記述する。

NCR87R3.4.0.2の規定により、書写事項を記述する場合はその全体を丸括弧でくくることはしない。なお、書写地・書写者が不明の場合には記述を省略するか、それぞれ[書写地不明][書写者不明]と補記する。書写年が不明の場合（推定記述も行えない場合）には、[書写年不明]と補記する。

書写者（製作者）の記録

書写者が転写者であると判明した場合は、NCR87R3.4.2.2A任意規定を採用し、「写」という用語を付して記録する。また、自筆であると判明した場合は、「自筆」という用語を付して記録する。筆写者が著者であるのか転写者であるのか判断がつかない場合は、名前のみを記録する。

（例）PUB:[書写地不明] : 吉隆[写] , 寛永14[1637]

（例）PUB:[書写地不明] : 藤原成元[自筆] , [寛政年間]

F1.6（以下を追加）

ただし、室町末期頃までのいわゆる古刊本等について、特に記載はないが、版面の状況等から高野版・伏見版等書誌学的通称名で示すことのできる版等であることがわかる場合は、この補記は省略することができる。

（例）PUB: , 天正8[1580]

（例）NOTE:高野版

F1.9（新規追加）

出版地または書写地に記録する古地名はNCR87R2.4.1.2Aの規定により、所定の情報源に表示されている出版地または書写地をそのまま記録する。識別上必要があるときは（NCR87R3.4.1.2A）当時の都市名、国名を付記または補記し、地名の別称が表記されている場合は通行のものを補記する。

（例）PUB:江戸 : 西村源六 , 文化12[1815]

（例）PUB:寺町[京都] : 佐々木惣四郎 , 安永7[1778]

（例）PUB:洛陽[京都] : 八尾勘兵衛 , 承応3[1654]

F1.10（新規追加）

出版者名を記録する場合、NCR87R2.4.2.2A（記録の方法）に関わらず、すべて記述対象資料に表示されている名称を記録する。従って、屋号が表示されている場合も、続けて姓名の表示があればそのまま記録する。

（例）PUB:皇都 : 伊勢屋額田正三郎

F2（出版年等）

F2.1（新規追加）

刊本については、刊行年が判明した場合、「刊」という用語を付して記録する。別に印行年が判明した場合は、「印」という用語を付して丸括弧(())に入れて付記する。印行年のみが判明した場合は、「印」という用語を付して記録する。刊行年、印行年の判別がつかない場合は、年のみを記録する。

また、写本については、記述対象資料の書写された年を記録する。

（例）PUB:東都 : 須原屋伊三郎 , 寛政4[1789][刊](文化5[1808][印])

(例) PUB:[書写地不明]: 藤雅威 [写] , 享和3 [1803]

F2.3 (F2.1 を F2.2、F2.2 を F.2.3 に変更)

和漢古書の場合、NCR87R 2.4.3.2A 別法、3.4.3.2A 別法の規定により、記述対象資料に表示されている紀年を当該資料の出版年・書写年として採択する場合は、そのまま記録する。表示されている西暦紀年を付記し、表示のないときは補記する。

(例) PUB:浪花 : 渋川清右衛門 [ほか] , 宝暦13 [1763]

また、干支による表記の場合は、可能であれば、相当する元号と年数による紀年に読み替えて記録する。

(例) PUB:京 : 橋屋治兵衛 , 寛政4 [1792]
(刊記には寛政壬子とあり)

読み替えができない場合は、推定による補記または出版年不明の扱いとし、干支による表記はNOTEフィールドに記録する。

(例) PUB:[出版地不明]:[出版者不明] , [出版年不明]
NOTE: 甲辰序

また、出版年を読み替えにより補記する場合は、必要に応じて、さらに西暦年を補記する。このとき西暦年は丸括弧(())に入れる。

(例) PUB:浪華 : 積玉圃 , [明和1 (1764)]
(甲申序あり)

出版年・書写年の推定補記

出版年・書写年の記載や序跋等に年の記載がない場合、あるいは資料に表示されている情報が記録するのにふさわしくない場合は、おおよその出版・書写年代を推定し、これを角括弧に入れて記録する。出版年・書写年が不明の場合(推定記述も行えない場合)には、[出版年不明][書写年不明]と補記する。

(例) PUB: 松阪 : 柏屋兵助 , [江戸後期]

(例) PUB:[出版地不明]: [出版者不明] , [文化・文政頃]

(例) PUB: 大坂: 綿屋喜兵衛 , [安政年間]

(例) PUB:[出版地不明]: 天禄閣 , [明]

(例) PUB:[出版地不明]: [出版者不明] , [出版年不明]

6. 形態に関する事項 PHYS

C.M.2.2.4 D (追加)

NCR87R1.5.0.0B 「「袋綴」という表現で示すことができる。」は、PHYSフィールドには適用しない。

C.M.2.2.4 F (追加)

数量

和漢古書の場合、資料の数量単位として、「冊」の他にNCR87R 第10章別表・付「特定資料種別の数量表示(单位名称・助数詞)について」の単位も使用できる。

例 卷子本・掛物類 --- 軸
一枚物 --- 枚
畳み物 --- 舗

折本(帖装)・旋風葉 --- 帖
書簡類 --- 通

但し、卷子本・掛物類については「巻」は用いず、「軸」を用いる。また、一枚物には「枚」を用いるが、畳み物類については「枚」は用いず、「舗」を用いる。

C.M.2.2.4 F (追加)

大きさ

和漢古書の場合、大きさの記述についてはNCR87R2.5.3.2の規定にかかわらず、センチメートルの単位で小数点以下1桁まで記録することができる。また、冊子本等についても、縦・横の順でその長さを「×」で結んで記録することができる。

(例) PHYS: 29丁 ; 26.8×19.8cm (大)

また、美濃判等、大きさを紙型に対応させた用語等を丸括弧(())に入れて付記することができる。

尺・寸等の単位や糶等の表記は使用しない。

7. その他のタイトル VT

C.M.2.2.5 F4 (追加)

和漢古書では、資料中の各所に表示されたタイトルをVTフィールドに記録する場合、タイトルの種類コード「OH(その他のタイトル)」とともに記録し、同時にその表示箇所についての説明をNOTEフィールドに記録する。

従って、和漢古書では資料の各部を表す種類コード「BC(裏表紙タイトル)」「TT(標題紙タイトル)」「MT(題字欄タイトル)」「ST(背表紙タイトル)」「CL(奥付タイトル)」「AT(副標題紙タイトル)」「CP(見出しタイトル)」「RT(欄外タイトル)」「CV(表紙タイトル)」は用いないものとする。

C.M.2.2.5 F5 (追加)

和漢古書における書誌の巻数は、TRフィールドにおいては本タイトルの一部として扱うが、VTフィールドには記録しないものとする。

(例) TR: 水戦法秘訣 3巻 / 佐藤信淵著
VT: 水戦秘訣

8. 内容注記 CW

C.M.2.2.6 D (例示を追加)

(例) 合写本の場合

TR: 類字

NOTE: 書名は表紙右上の書き入れによる, 左上には右から「江談抄」「古事談」「續古事談」の書き入れあり

NOTE: 「江談抄類字」「古事談類字」「續古事談類字」の合写本

CW: 江談抄類字

CW: 古事談類字

CW: 續古事談類字

(例) 各内容に対する別タイトルがある場合

TR：経傳攷證 8巻

VT：OH：春秋左傳

VT：OH：公羊傳

VT：OH：穀梁傳

CW：春秋左氏傳

CW：春秋公羊傳

CW：春秋穀梁傳

NOTE：「春秋左氏傳」の版心と小口書きの書名：春秋左傳

NOTE：「春秋公羊傳」の小口書きの書名：公羊傳

NOTE：「春秋穀梁傳」の小口書きの書名：穀梁傳

9. 注記 NOTE

2.2.7F 【データ記入及び記入例】

書誌作成単位に関する注記

和漢古書は、記述対象資料に特有な記述が必要であるため「稀覯本」扱い(「目録情報の基準・第4版」4.2.3)とし、記述対象資料毎に別書誌レコードを作成する。また、その旨を最初の注記として記録する。

(例) NOTE：和漢古書につき記述対象資料毎に書誌作成

(注) 和漢古書の範囲：

原則として、和古書は1868年以前、漢籍は1912年以前のものを和漢古書とする。ただし、幕末のもの、清朝末期のものにおいて、近代的印刷技法・出版形態によって大量出版されたものについては、和漢古書扱いとしなくてもよい(版毎に書誌レコードを作成し、その書誌レコードを共有する)。

また、明治期以降のものであっても、和漢古書としての取扱いが適当と思われる書写資料、少数部数の刊行物などの場合は、和漢古書扱いとする。

F2.2

NCR87Rで示されているもののうち、次に示す項目は別の取扱いをする。

通則に関する注記

- ・タイトルについては、巻頭以外を情報源とした場合には、その情報源を示す。また、各書誌的事項において、識語および後補書入を情報源とした場合には、その旨を記録する。その他、各書誌的事項において、必要があるときも、その情報源を示す。

- ・タイトルに誤表示や脱字がある場合は、検索に支障のないよう、正しい形及び誤って表示された形をVTフィールドに記録することができる。また、NOTEフィールドにその旨を記録する。

- ・転記の原則に従えない事情がある場合には、何らかの方法によって表現し、NOTEフィールドにその旨を記録する。

写本に関する注記

- ・写本(和古書) 鈔本(漢籍)の場合、注記する。

(例) NOTE：写本

(例) NOTE: 鈔本

- ・ 書写者に書写を命じた依頼者などが判明した場合は、必要に応じて情報を記録する。

書誌学的通称名、本文の系統等に関する注記

- ・ 書誌学的な立場での、特徴、性質等を示す通称名がある場合は記録する。例えば、和古書の場合には、春日版、伏見版、古活字本、丹緑本、奈良絵本等、また漢籍の場合には、宋版、石印本、蒙古刊本等を記録する。その他、銅版、銅活字版、金属活字版等々。
- ・ 本文の系統等(原刻本、流布本、別本、定家本、等)当該資料を特定できる情報がある場合、必要に応じて記録する。

タイトルに関する注記

- ・ 記述対象資料中のどこにも本タイトルがない場合は、適切な情報源による本タイトルか、目録作成者が決定した簡潔で説明的な本タイトルを補記する。このとき、目録作成者が判断・決定したことを NOTE フィールドに記録する。
- ・ 題簽・外題については、必要に応じて転記するとともにその位置や様式(絵題簽、目録題簽、等)などを記録する。また、刊本における書き題簽、書き外題、写本における刷り題簽などは、その旨を記録する。後補であることが判明した場合にも記録する。
「外題」とは、ここでは、表紙に直接記されたタイトルとする。

(例) NOTE: 題簽左肩双边黄紙「新版 絵入 花色紙襲詞」(「新版 絵入」は角書)

NOTE: 題簽中央後補墨書「焦尾琴 風」

NOTE: 外題左肩後補墨書「平家物語巻第一(～十二)」

- ・ 記述対象資料中の各所に表示されたタイトルを VT フィールドに記録する場合、タイトルの種類コード「OH(その他のタイトル)」とともに記録し、同時にその表示箇所についての説明を NOTE フィールドに記録する。

責任表示に関する注記

- ・ 記述対象資料中に、責任表示に相当する表示がないとき、記述対象資料以外の何らかの情報源から得られた場合にはそれを補記し、その情報源は NOTE フィールドに記録する。

出版に関する注記

- ・ 蔵版者等について記録する。魁星印、蔵版印、版元印についても、必要に応じて記録する。
(例) NOTE: 見返しに「江戸書林 青藜閣蔵版」とあり
NOTE: 刊記中「江戸 須原屋伊八」に蔵版印あり
- ・ 広告、蔵版目録や、記述対象資料に捺印された発行印(出版者標章のようなものも含む)などから採録した出版者については、情報源を記録する。
- ・ 参考資料によって出版事項がわかる場合は、その旨記録する。
(例) NOTE: 出版事項は「内閣文庫漢籍分類目録 改訂版」(内閣文庫, 1971.3)より
- ・ 出版事項の主な典拠である刊記・奥書等を、必要に応じて転記する。
(例) NOTE: 刊記に「寛文三稔癸卯」「長尾平兵衛開板」とあり

- ・初刷でないことは明らかだが、印行年（刷年）が不明な場合は、「後印本」と記録する。
（例）NOTE：後印本
- ・後修本であるのが明らかである場合は、記録する。
（例）NOTE：後修本
- ・覆刻本であるのが明らかである場合は、記録する。
（例）NOTE：覆刻本
- ・出版年などが干支による表記で、相当する元号と年数による紀年に読み替えができない場合は、推定による補記または出版年不明の扱いとし、干支による表記はNOTEフィールドに記録する。
（例）PUB：[出版地不明]：[出版者不明]，[出版年不明]
NOTE：甲辰序

版式（版面）に関する注記

- ・匡廓、界線について、必要に応じて情報を記録する。
- ・行字数について、必要に応じて情報を記録する。
- ・版心（魚尾、黒口、等）について、必要に応じて情報を記録する。
（例）NOTE：四周单边有界8行18字，双魚尾

巻冊次と残欠の注記

- ・残欠の状況はNOTEフィールドに記録する。丁単位、表紙等の欠について記入してもよい。
（例）NOTE：存巻 疎下・牒下
NOTE：巻二十四第20丁は重複
NOTE：巻一・三に目録なし．巻一初丁表、巻六第13丁裏以降を欠く
- ・VOLフィールドに記録しなかった巻冊次はNOTEフィールドに記録する。
（例）NOTE：題籤による冊次：巻之1-5：乾，巻之6-10：坤

装丁に関する注記

- ・袋綴じ（線装）以外の装丁（卷子本、折本、疊物、一枚物、等）については、記録する。
- ・袋綴じ（線装）の様式（三つ目綴じ、康熙綴じ、亀甲綴じ、等）については、必要に応じて記録する。
- ・料紙、表紙などについて、必要に応じて記録する。
（例）NOTE：表紙，本文紙ともに鳥の子紙
NOTE：表紙は原装

印記に関する注記

- ・当該資料中の印記を必要に応じて記録する。印記の所蔵（使用）者が判明した場合は、付記する。
（例）NOTE：印記：「明道館図書記」
NOTE：印記：「林文庫」，「北總林氏藏」（2印とも林泰輔）
- ・判読できないのものは、「蔵書印あり」と記録するにとどめる。また、複数ある場合は、その数を

記録する。

(例) NOTE: 蔵書印 3 印あり

- ・ 絵印(だるま形等)など、文字が使用されていない蔵書印は、形を記録する。

(例) NOTE: だるま形の蔵書印あり

- ・ 旧蔵者、伝来が判明した場合は、必要に応じて記録する。

(例) NOTE: 清水浜臣旧蔵

その他(注、訓点、節付記号、識語、書き入れ、付箋、等)

- ・ 注がある場合は、必要に応じて、「頭注あり」「脚注あり」というように場所を含めて記録する。

- ・ 本文に訓点等がある場合は、必要に応じて、漢字、片仮名、平仮名の別と共に記録する。

(例) NOTE: 付訓あり. 右傍: 片仮名付訓, 左傍: 平仮名付訓

- ・ 謄本等で、本文の横に書かれている記号がある場合は、必要に応じて記録する。

(例) NOTE: 節付記号あり

- ・ 識語、書き入れ、補写、筆彩等がある場合は、必要に応じて記録する。

(例) NOTE: 識語「安永四年末九月廿五日はしめてよむ / 小雲泉主人」

NOTE: 朱墨の書き入れあり

NOTE: 図版の一部に後人の着彩あり

- ・ 付箋、押紙、貼りこみ等がある場合は、必要に応じて記録する。

(例) NOTE: 表紙見返しに付箋あり

NOTE: 「神武天皇聖蹟調査関係書類」との付箋あり

- ・ 挟み込まれている紙片がある場合は、必要に応じて記録する。

(例) NOTE: 紙片(22.2×28.5cm)の挟み込みあり

- ・ 必要がある場合は、帙、箱などについても記録する。

(例) NOTE: 箱入り、箱書(小津桂窓筆)「曲亭馬琴翁書」

- ・ 虫損等で保存状態がよくないと思われるもの、あるいは補修があるものについて、必要に応じて記録する。

(例) NOTE: 虫損あり (裏打ち補修あり)

NOTE: 破損, 汚損, 虫損あり

以上